

参考資料3 地域意見交換会議事要旨

①	須佐地区
②	弥富地区
③	江崎地区
④	小川地区
⑤	明木地区
⑥	佐々並地区
⑦	福川地区
⑧	紫福地区
⑨	川上地区
⑩	吉部地区・高俣地区

※実施順

平成 30 年度 交通に関する須佐地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 7 日（木） 10：00～11：30

場 所：須佐総合事務所 3 階大会議室

事務局：萩市、須佐総合事務所、日本工営(株)

ご参加：住民の皆様 17 名

報道関係：萩ケーブルネットワーク、はぎ時事新聞



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

事務局：調査結果を踏まえ、方向性を整理して今後の方針案の話を説明した。課題を克服するために大きく 4 つの視点で将来像の案を描いている。

参加者：将来像案について、益田への足が重点的に書いてあるが、特に高校生は半数が萩方面へ向かう。将来像案の図面では萩への幹線交通、特に路線バスが益田方面と比較して弱いように感じる。

事務局：広域的な幹線を担う路線として、JR 山陰本線を位置付けている。ただ、萩方面への路線バスはどうなのかというお気持ちは分かる。頂いたご意見も踏まえ、足の確保を含めて総合的に手法について検討していきたい。

参加者：今回意見交換会参加にあたり、交通に関して様々調べた。その中で、島根県雲南市の例が先進的ではないかと思う。縦割行政を無くし、あるものを組み合わせる、無駄を無くすということが書いてあった。発想の転換が面白いと感じた。住民目線で縦割りではなく横串で、という発想が欲しいと感じる。例えば旅客と一緒に貨物の輸送も兼ねるといったアイデアも考えられる。今後はデメリットもメリットに活か

すことが大切だと思う。官民合わせて、無駄を省いて、シンプルにして、急ピッチで考えていかないといけないと感じる。

事務局：縦割ということだが、交通と福祉の部署で連携して考えていきたい。また、住民の方と事業者と、行政とで協働して取り組みたいと思っている。

参加者：高齢者生活支援として乗合サービス（もやいサービス）をやっている。開始までに2年かかった。交通事業者ではないため、輸送の対価としての現金のやり取りは難しい状況。国から許可を得るのは難しい。輸送の対価として現金を受け取れない代わりに、地域通貨を発行して対応している。ただ、地域通貨では足りない部分もある。また、タクシー廃業後、果たして誰がその穴を埋め、担うのかという点が問題である。確かに助け合い、もやいの精神は重要である。しかし、ぐるっとバスもあれば、保育園や小学校の送迎車、もやいサービスと移動に関する部分はばらばらである。資金もばらばらである。これらが統合できればいくらかは人が雇える。個別ではなく誰が担うか、ということが重要。

事務局：住民の方に担っていただくにしても高齢化で誰が担うかという点は課題である。地域の団体に担っていただくにしても運転士の確保は課題。足の確保という意味では、全体的に考えていくことが大事だと思う。ただ、それぞれのできる範囲がある。利用者が選べるということも大事だと考える。福祉でやっている事業も、ぐるっとバスの事業もきめ細かい交通とは何か、高齢者が移動しやすい交通とは何かを考えていかねばならない。全ての交通網を一体的に運営する仕組みは、すぐに体制を作れないので、まずは様々な手法を組み合わせたいと思っている。自家用有償旅客運送に当てはまらない輸送もあると思う。近所の支え合いやボランティア団体などの住民の支えあいもある。

参加者：何か事故が起こった時の対応、法令順守、責任の所在が心配である。誰が法令管理をするのか、体制作りが大事だと考える。事業に当たって基礎的な部分をしっかり詰めてからでないと、難しいと感じる。ぜひ考えてほしい。

事務局：これまでは安全性の確保、利用者の安心感から緑ナンバーの事業者で交通を担う仕組みだった。ただ、過疎地域ではそれが成り立たなくなっているため、国の方に登録したら白ナンバーで人を運送できる制度が自家用有償旅客運送である。移動手段の確保という視点で、その手法も考えたい。

参加者：ぐるっとバスの本数増えると聞いたが、どのようになるのか。

事務局：現在増える方向で検討中である。

参加者：手術したため、遠いところまで歩けない。ぐるっとバスの待ち時間が2時間あり、間の時間をつぶせない。本数が増えたらありがたい。

事務局：週5日運行、時間帯の制限をはずすことを考えている。

参加者：9時に乗っても相乗りなので時間がかかる。診療所の時間に間に合わない時がある。

事務局：時間帯の制限を無くす予定なので、利便性が上がるのが期待される。ただ、多くの方が重なると待ってもらうようなこともある。

参加者：診療所は水曜が休診なので、火曜と金曜が混む。時間の余裕ができるように運行が変わると嬉しい。

事務局：ぐるっとバスなので方向が重なったら遠くまわることもある。4月からはそれが緩和されるようにしたいが、タクシーと同じようにはならないが、2時間待ちの状況は改善したい。

参加者：診療所は暖かいからまだバスを待てるが、キヌヤは待つところが無いから駅に行って待っている。

参加者：地域として交通のサービスを統合する事について、賛同する。事故の面は確かに心配だが、理想像は高く持った方が良いのではないか。雲南市の事例を勉強してほしい。利用者目線で見えた輸送の統合、横のつながりを実現してほしい。

-
- 参加者：ぐるっとバスの問題点は、町中へ行って路線バスや鉄道に乗り継ぐことができない様な、健康上問題がある人には使えないということ。乗継ができない人は困ると思う。そのような方もいるので、移動支援として広く情報を1か所に集めて、横串で連携してほしい。
- 事務局：まずは今のぐるっとバスの制度に合わせて改善策を進めたい。自治会の意見を聞いて、となり近所の移動に困っている方の話等々、住民による支えあいも含めて考えていきたい。
- 参加者：交通体系は結局民間で動かないと出来ない。移動支援として様々な形が統合した横串のひとつのかたまりが欲しい。商工会が10年前にモデルとして取り組んだができなかった。
- 参加者：タクシー休業と廃業の違いについて。今後の地域の交通体系を維持するのに邪魔になるのでは。休業の場合、復帰する際に他の交通の利便性が高くなっていたら復帰に支障が出るのではないか。
- 事務局：資料は、現況として運輸局への届け出の状況をそのまま示している。仮の話だが、休業から復帰した際には、タクシー業者に委託して交通担ってもらうことも考えられるので、休業が復帰の支障になることはないと考えている。
- 参加者：京丹後市のタクシー事業廃止の件はどう思うか。
- 事務局：京丹後市の場合は、NPOがタクシー廃業後に移動支援に動き始めたと同っている。また、京丹後市はバスの運賃を抑えて利用を促進したと聞いている。今後、萩市においても運賃補助なども福祉政策と連携してやっていきたい。また、スクールバスの混乗なども考えたい。
- 参加者：ぐるっとバスは無料であり便利である。様々な移動を統合して一本化するのは難しいだろうが、輸送を担う団体があれば実現できるのではないか。
- 参加者：市会議員が発行するチラシを読んだが、白タクに似たような過疎地の制度があると聞いた。今は萩や益田に行く際は、友人に連れていってもらっている。謝礼を差し上げているが、もっと気軽に頼める制度があれば、例えば社協などが運転士募ってできないか。
- 事務局：白タクは登録せずに自家用車でタクシーを行うことであり、白タク行為自体は今も禁止されている。平成18年から過疎地域では自家用有償旅客運送の制度が開始された。先ほどのお話は、切実な問題であると感じる。基本は輸送して対価を受け取れば自家用有償旅客運送として安全確保が必要である。ただ、市の公用車を貸し出してボランティアに輸送してもらっている例もある。その場合は対価を取らない。大分では、コミュニティのサークル活動として交通を確保している地域があり、輸送費ではなく会員から会費としてお金を集めて、運転はボランティアがやっている事例がある。運輸局に確認してやっているとのこと。ただし、路線バスが走っている区間で地域コミュニティ交通を進めると幹線交通の維持が難しくなる。
- 参加者：支えあいは大切だが、支える人間も高齢化する。多世代につながればいいが、担い手がない。人がいないのが過疎である。様々な移動サービスを統合する必要があると思う。利用者もわがままは言えない。支えあいの仕組みを作るのは喫緊の課題だと思う。
- 参加者：移動の供給側及び行政側の組織化を早くやったほうがいい。「須佐方式」作るために、関係団体集まって考える。行動を起こさないといけないと思う。
- 事務局：民間団体の皆様の中で、移動に関して課題を認識してもらっていると思う。少しでも前に進めればいいと思う。それぞれの団体に移動をテーマにして話してもらえると嬉しい。
-

4. 閉会

事務局：様々のご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上

平成 30 年度 交通に関する弥富地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 7 日（木） 14：00～15：30

場 所：弥富交流促進センター

事務局：萩市、須佐総合事務所、日本工営㈱

ご参加：住民の皆様 31 名

報道関係：萩ケーブルネットワーク



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：地域内の輸送は、弥富でっぴん会という形で輸送支援を行っている。課題は、運転手の確保。誰もが運転できるのではなくて、登録したドライバーだけ。ただ、担い手は少ない。制度があっても実際の運行は難しい部分がある。急な運転の要望には運転手が対応できない。社協としてはそのような課題を認識している。

事務局：須佐地域では、1 台の車両（セレナ）を弥富に置いている。担い手確保は大きな課題と思っている。様々な移動手段を検討して、そのエリアの移動手段をどう考えるか、それがぐるっとバスなのか自家用有償旅客運送なのか検討したい。方法としては、住民の支えあい交通、ぐるっとバス、自家用有償旅客運送などを組み合わせていくことを考えている。

参加者：でっぴん会が弥富地区の移動を支えるというのは分かる。それを車両 1 台で進めていくのはニーズが増えると対応が難しい。今後、ぐるっとバスのデマンドでこまめにニーズに対応できることが望ましい。基幹路線については、ある程度行政サイドで対応してほしい。地域内は住民が対応ということは分かる。便の増加に対する対応が困難。運転手確保は難しい。ボランティアの方の中には、自分の仕事を犠牲に

-
- して運転されている方もいる。そのあたりを考慮してほしい。
- 事務局：担い手確保は大きな課題。でっぴん会だけで交通空白地対策は到底できない。ぐるっとバスもあるが、例えば自治会で自家用有償旅客運送をするなど、あらゆる手段をニーズに合わせて対応できないか考えている。足の確保という観点で、利用しやすい体系を考える。自家用有償旅客運送も含めて対策を考えていきたい。
- 参加者：例えば交通弱者を車に乗せてあげて、謝礼を出すという対応はできるとは、具体的にはどういうことなのか。
- 事務局：これまで安全性確保や安心感から運輸局へ届出をして許可を受けた事業者が交通事業を担ってきた。しかし、過疎地域に対しては、NPOや自治会等で自家用有償旅客運送として登録すれば、国が定めている講習を受けて運行主体になることが可能。今は隣近所の助け合いでやっていることに對し、任意で謝礼を払うということは道路運送法の届け出は必要ないがあくまで自己責任。ただ、あらかじめ輸送に対する金額が決まっていない、あくまで自発的なものでなければならない。その他ボランティア活動としてやる場合は、実費相当に関しては許可が必要ない。いずれにしても住民による支えあいがあれば理想だが、安心感という観点からグレーの部分を使うよりは交通事業者を利用した方が安心である。実際にはグレーの部分の判断は難しいため、事前に運輸局に相談する必要がある。自家用有償旅客運送の手続きが必要なのかそうでないのかの判断は必要だが、昨今は過疎の地域では自治会などでも、運行主体として登録できるようになった。コミュニティとして支えあいで足を確保できればそれも移動手段の確保だが、自己責任となる。
- 広域幹線へつなぐまでの足、役割分担を考え、きめ細かなサービスは住民の方が関わる形で、行政と住民が一体となって考えていきたい。
- 本計画は本年 12 月に策定を目指しているが、できる部分は随時取り組んでいきたい。いずれにしても方向性を定めて、出来るところから始めていきたい。
- 参加者：極論を言うと、どこに住んでいても自動車が無くても住めるようになるということか。ぜひそうしますと言ってほしい。
- 事務局：そのような形を目指している。その手法として、交通事業者だけでなく様々な担い手ができればと思っている。
- 参加者：弥富地区ではここまでは行政で担う、ここからは住民で担う、という線引きのようなことを決めたいと感じたがいかがか。
- 事務局：現状は市が路線バスの欠損補助もぐるっとバスもやっているが、いろんな担い手を組み合わせて交通体系を確保することを考えたい。
- 参加者：今後も意見交換会をやるのか。
- 事務局：網形成計画の策定に関しては今回だけである。具体的な事業推進の段階では、住民の皆様と連携を取りながらいろいろお話させて頂きたい。
- 参加者：困っていることは今回どんどん言わないといけなということの良いか。
- 事務局：ぜひこの場でご意見を頂きたい。
- 参加者：ぐるっとバスの時間が不定期で、ある時間に行きたくても火曜日の 2 便は小川方面であり、弥富方面の便はなく、救急車を呼ぶほどではないが診療所に行きたいという方がいた場合に送迎してあげるケース、もしくは土曜日に急に体が痛くなったが診療所は空いてないので菘か益田に送迎してあげるケース、があった場合、白タクのようになるがそれはいいのか。
- 事務局：あくまでお互いの気持ちであり、謝礼の強要はいけない。善意の謝礼や近所の助け合いは運輸局の許可はいらぬ。ぐるっとバスの時間帯、エリアについては、診療所の受付時間に合わせてあるが、今後利便性向上のため時間や便数について再検討しなければならない。制限を緩和できれば利便性は上がると考える。今後診療所の先生の診療曜日等の都合を鑑み改善策を考えたい。
-

参加者：ぐるっとバスは診療所のためのバスなのか。

事務局：そうではなく、お買い物などでも自由に利用いただける。

参加者：いずれにしても住民の不定期なニーズに対して対応できる体制は必要。定時定路線では使いづらい。地域としては組織的な受け口を設け、相互扶助による乗合も必要だと思うが、ある程度行政からの財政的な支援が無いと難しい。

事務局：移動ニーズにどう対応していくか、行政としても住民団体が自家用有償旅客運送をやっていくということに対して支援する。バスの貸し出しや燃料費などの経費は市で支出して、住民の登録ドライバーに運転をお願いする仕組みも考えられる。ボランティアについては限界があることから、自家用有償旅客運送を考えていく必要がある。弥富地区のぐるっとバスは3エリアの区分があるが、このスタイルも再検討する必要があると考えている。なお、ぐるっとバスのチラシは12月に全戸配布している。運行の地区と時間が決まっています長時間お待たせしご不便おかけしているが、そのあたりも今後改善を検討していきたい。地域毎にぐるっとバスのシステムは様々だが、より利便性上がるように、使いやすいぐるっとバスの在り方を検討したい。改善できるところはできるだけ早く改善していく。利用者が少ないがその要因を今回のご意見も踏まえて考えたい。

参加者：ぐるっとバスの時間をみたら、午後便を利用したら、帰りの便が無いので、帰りの便をドライバーに交渉できるのか。

事務局：それは難しい。

参加者：ぐるっとバスの詳しい使い方を教えて欲しい。

事務局：先日須佐地区の民生委員の方々に、寸劇形式でぐるっとバスの使い方講習の場を設けられている。弥富地区も3月に予定されているため、ぜひご参会頂きたい。3月12日に弥富でっぴん会で実施される。

参加者：ぐるっとバスは弥富地区だけの移動なのか。

事務局：弥富地区だけである。弥富から須佐までは路線バスがあるので、バス事業者との調整があり、ぐるっとバスで須佐に直接行くのは難しい。

参加者：先日、ぐるっとバスの運転中止という放送が地区内で流れていたが、どういうことか。

事務局：運転士が確保できないときはやむを得ず中止して、住民の皆様になるべく早くお知らせするように放送している。

参加者：江崎や須佐へ週に1回でもぐるっとバスで行くことはできないか。路線バスは乗っても帰りの時間帯に良い便が無い。

事務局：路線バスへの接続の問題やぐるっとバスの利用低迷について、広域幹線への接続という目的は保ちつつ、路線バスの代替手段についても考えていきたい。

参加者：鉄道へのダイヤの接続ができていない。

事務局：鉄道とバスの接続についても考えていきたい。広域幹線や、目的地まで乗り継いで行ける環境を整えたい。

参加者：須佐までの防長交通は朝、昼、夕方だが、中間に1便追加は無理なのか。循環しているのはいいが、本数の少なさはどうにかならないか。

事務局：須佐・田万川循環線について、防長交通の車両は2台あり、できる限り運行していただいている。今後どのような運行ダイヤがいいのか、効率的で利便性も上がる運行方法はないか、考えていきたい。路線バスなのか別の手法なのかも含めて、改善の余地があると思っている。

ぐるっとバスの利便性向上も検討している。待ち時間をできるだけ少なくなうような工夫を検討したい。

今後の改善は本日いただいたご意見を踏まえてできることからやっていき、高齢者の移動手段確保を進めたい。

参加者：路線バスのステップが高いため、高齢者は足が上がりずらいと言っていた。

事務局：ノンステップバスの導入が進んでいない状況もあるが、台を置くなどできる工夫を考えていきたい。

参加者：ぐるっとバスの運休の件は、市の職員が対応するという方法はできないのか。

事務局：現在、市の職員が運転していて、運転手が休み、日によっては代わりの方もいないため運休になる。できるだけご不便をかけないようにしたい。

4. 閉会

事務局：様々なご意見をありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上

平成 30 年度 交通に関する江崎地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 8 日（金） 10：00～11：30

場 所：田万川コミュニティセンター

事務局：萩市、田万川総合事務所、日本工営（株）

ご参加：住民の皆様 48 名



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：田万川にお住まいの方は、買物、通院で、益田に行くことが多い。特に通院では、午前中の受診時間があるので、それらに合わせる等の配慮が必要。JR でも、石見交通でも、経営が厳しいのは理解できるが、このようなものも踏まえて将来の形を考えないと難しい。市の財政難とも連動しており、（公共交通に対して）財政がついていかないと、負担を負うのは交通弱者となる。また、バス停から遠いところにお住まいの人や、歩行が困難な人に対応した運行形態、例えば自家用有償旅客運送などの形が近いと思われるが、今回の計画を早くまとめた上で、これらの施策を現場に落としとして頂きたい。

事務局：路線バスは維持する必要がある中で、財政難もご指摘のとおりである。そのような状況で、効果的な運行をどう考えていくか。例えば田万川には須佐・田万川循環バスがあるが、利用は少ない。また利用が少ないということは、利用しにくいという部分もある。そのような状況で、それぞれの地区間は、場合によっては市や NPO 等が運営することなども踏まえ、しっかりとつなぐ必要があると思われる。例えば路線の幹線だったら、地域間の連結をどのように確保しているか、住民の生活に密着した形で、効果的な融合方法について検討する。また高齢化の中で、バス停に遠い

人についても、地域に密着した形で、ぐるっとバスの運行や、住民間の支え合いなどの取組も含めて検討する。本計画は平成31年12月に策定予定。ただし、先般の須佐のタクシーの廃業については、12月から直ぐに、ぐるっとバスの体系を見直した形で対応している。田万川地域でも4月からのぐるっとバスの見直しを検討していく。できるところから対応を進めていく予定である。

参加者：田万川、須佐のタクシー事業者の撤退について、他の地域のタクシーなどで対応できないか。萩近鉄タクシーは、阿武町に営業所がある。ぐるっとバスの運用が、緩和されて乗りやすくなるのはいいが、江崎から小川まで距離もあるため、ぐるっとバス2台で対応できないか。または、普通自動車2台で対応できないか。例えば、月水金の空いている曜日を、その車がタクシーにかわるなどの方法が考えられないか、あるいは自家用有償旅客運送で対応するなど、検討頂きたい。これらの取組を地域の人に対応できるとよい。また空き時間、有償で、20時や21時の夜の運行もできるとよい。NPO法人の活用や、ボランティア運転手を雇う方法等、検討いただきたい。

事務局：タクシーについては、その配置対応ができるかどうか、タクシー事業者を確認する。ぐるっとバスの1台運行では、ご指摘の通り限界がある。普通車で輸送も今回提案頂いた。その辺も含めて、要は、それぞれの地域で高齢者の足の確保を図りたいと考えている。また夜の送迎のための運行者確保についても、今後検討したい。

参加者：昨年7月の石見交通のダイヤ改正があった、江崎の住民にとっては優しい改定だった。朝一番がJR益田駅止まりだったものが、益田赤十字病院の玄関前に止まるようになり、利便性が向上した。また二条のバス停、小島のバス停も従来通り、8時17分着になった。朝6時49分発の日曜祝日運用の便もある。大変助かっており、週3回、益田赤十字病院に通院している。積雪時も助かった経緯もある。一方で、いずれ住民主体による自家用有償運送を進める時期がくる。田万川には、田万川21という組織があるが、運転手の担い手確保が厳しい状況で、消防団でこれから住民主体の運送の担い手がいないか、検討するなどの動きもみられる。交通安全協会、江崎、小川、須佐、弥富も含めて、若い担い手を確保できないか検討している。

事務局：行政、交通事業者及び住民がより一体となった交通体系を作る際、どうしても担い手が必要となる。高齢者の方が高齢者を支える時代になっている。介護保険制度を活用しつつ、総合事務所管内で、運転手を登録して運行しているが、担い手の確保は重要な課題である。NPO法人たまらぼなどの活動主体もあるが、担い手については、このような主体でも課題があると思われる。担い手をどのように確保していくか、大きな課題となる。

参加者：高齢者になると、車での移動が主体となる。そのような高齢者がタクシーを利用していたが、廃業となった。タクシーなら細々と移動できた。利用者にとっては価値のある交通網だった。市営でのタクシーを復活させてほしい。(市営タクシー実施に対し)体力が必要なのは承知の上である。高齢者や障害者でタクシーが急に必要な人もいる。

事務局：車が運転できている人も、将来不安を感じている方も多い。それらも踏まえて交通体系を考えているが、江崎地区の社会福祉協議会でも、住民と話し合いを踏まえながら検討を進めておられる。タクシーについては、運行事業者は過疎地域で、利用者が少ないと、事業運営が成り立たない現状がある。タクシーは行きたいところにいける便利な足であるが、その代替手段を直ぐに確保できない難しい状況である。タクシーの代わりとまではいかないものの、公共交通として、ぐるっとバスの見直しを図っている。

参加者：萩市だけでなく、日本全国の課題である。全国各地で、様々な施策を実施している

のではない。全国ではこういったことをしているのか、手助けになると思われる。そういったもの調べて、こういった方法が実施できるのでは、というものを示してはどうか。また江崎の公共交通を利用するものは何人いるのか、必要としている人間がどの程度いるのか、そのあたりも検討して頂きたい。

事務局：過疎地域の公共交通の確保は、全国的な課題である。その中で、例えばNPOが代わりに交通事業を実施し、あるいはそれぞれの自治会連合会で自家有償運送で対応している事例もある。全国の事例も参考にしながら検討を進める。また江崎の中で何人ぐらい、公共交通を必要とするのか、あるいはどの程度運転免許を保有しているのか、調査しているので、今後確認したい。

参加者：NPO法人たまらぼでは、高齢者の移動支援を行っており、去年の9月より運用開始、80～90歳台の人が登録し、7人が利用しており、また登録者も増えている。年間8万円を頂きながら対応している。地域では、家族の送迎で対応している人もいるが、移動を助けるのも高齢者という現状もある。中では、少し安くても良いので、料金ありで送迎していただければ、との意見もあった。江崎では、地区限定で、たまらぼによる車での移動支援を実施しており、また小川地区でも同様の支援を実施しているので、これらの連携も重要である。ぐるっとバスの運行では施設「ぬくもり」まで来て頂けるともっと利便性は向上する。また、ぐるっとバスでは、現状の大きさでなくとも、もっと小さい車両でも運行してもよいのではないかと。

提案だが、ボランティア活動にも限度がある。たまらぼの利用者から1000円を徴収し、700円をボランティアへの謝礼、300円を管理費に当てているが、地域の力で支える方法が必要である。ぬくもりの会場を設営しながら、対応しており、ボランティアでのエネルギーを割いている。どこまで体制を確保できるか、悩ましいところである。田万川ならではの対応、田万川のこういったサービスだったら、地域を救えるような仕組みがあるとよい。

田万川地域は、高齢者が多いので、特区という形で、田万川らしい対応ができないか。萩市として現実的にできないか。シンプルに考えてほしい。足が不自由なので、我が身のように考えて、どのような体制が必要か検討していただきたい。

事務局：実際に、高齢者支援の活動されていること、ありがたく思う。田万川の介護保険事業で実施している、その登録者数が増えている。介護が必要になる前の人を支援するために取り組んでおられるので、高齢者のニーズを踏まえて、そういった仕組みが必要かを検討する必要がある。ぐるっとばすのぬくもりへの対応は、総合事務所と対応を検討したい。またぐるっとバスは、利便性を考慮して、須佐、田万川の枠を外した対応を検討している。

有償ボランティアで支える仕組みについても、実証的な取り組みで一度対応することも考えられる。行政としては、様々な主体や住民と連携しながら取り組みができればと考えている。

参加者：これからの当面の交通体系は、住民と行政が意見を交換して、構築していくものと考えられる。よって、話し合う団体、各方面の方から代表意見を述べる、そういった団体が必要ではないか。専門家の方が検討するのは重要だが、地域の方が必要とする者には誤差がある。そういったプロセスが大事である。そういったものが常時あってもよいのではないかと。

事務局：今日の将来像の中にあつたように、住民の方も含めた新たな交通体系を作っていく。住民の意見を踏まえるためにも、そういった話し合いの場も必要である。ふるさとづくり協議会で話し合いの場を設けるなど、いろいろ方法はある。住民のコンセンサスをどのようにとっていくかが必要であり、そういった機会をつくるように検討したい。

参加者：ぐるっとバスの使い方がよくわからない、タクシーがなくなるので、ぐるっとバス

-
- で小回りがきいて、随時行きたいところに行く等、そういった仕組みは出来ないか。
- 事務局：タクシーの代わりをぐるっとバス1台で担うのは、困難である。ただ、今のぐるっとバスの運行形態を見直して、利便性を高める努力をしている
- 参加者：地域で特に困るのは一人暮らしの高齢者である。どの程度独居の高齢者がいるのか、調査して頂きたい。益田、萩市内まで行かずとも、近くの道の駅まで行く足が無いのが独居高齢者の課題である。よく調査をして、本当に移動手段がない人をどのように対応するのか検討して頂きたい。善意をもって、ボランティアで対応して頂ける方がいないか、行政が調査して欲しいような仕組みを検討して頂きたい。
- 事務局：きめ細かい、高齢者が移動できる仕組みをどのように考えていくか。ぐるっとバスだけではとても足りる状況ではない。交通空白地では、デマンドによる対応、あるいは福祉の関係で、公用車も配置する、あるいは地域の団体が登録して、交通事業者を運営する方法等がある。住民間の支えあいで、高齢者の人が外出できる仕組み、あるいはコミュニティ・近所の助け合いも一つの手段と考えている。それぞれの地域で検討したい。また、移動時の料金は、謝礼の範囲では、受け渡し可能な場合もある。違反行為にはならないので、コミュニティの一つの助け合いとなるとも考えられる。
- 参加者：先ほどの意見は非常に大切。これから先、運転が出来なくなる人が増える。最初の検討が一番大事である。ぐるっとバスの人数は一日何人ぐらいか。
- 事務局：一便あたりだと、下田万は2.5人、江崎は1.1人乗車している。上田万は0.0人と今年度の利用が少ない。一日当たりの利用者数は、別途算出をしているものの、定時定路線とデマンド運行の利用状況の比較の意味もあるため、資料には一便あたりの利用者数を示している。ご指摘の通り、デマンド運行は、予約を受けて運行しているため、一便あたりの利用者数よりも、一日あたりの総利用者数が重要な指標である。1日あたりの利用者数も確認しながら、運行について検討したい。
- ぐるっとバスは萩市が実施しており、運行している。この先、タクシーに変わるものが必要であり、ぐるっとバスも1つの手段である。多少時間の区切りは必要だが、ぐるっとバスの利便性を上げる必要がある。また電車の時間に合わせた運行など総合的に考えながら検討を進める。
- ぐるっとバスの利用の仕方が分からない人も多いので、須佐地区では、民生委員の方が劇をする形で予約方法を説明する取り組みを実施している。このように知ってもらう機会を作っていくことも必要である。
- 参加者：自分の家から道の駅に行くことが出来ない、それが問題である。一日の時間を細かにして、予約して家の前まで来るような対応としてはどうか。高齢者が、どのように困っているのか、まずは実施してみて、変えていけるとよい。そういう形で運行していく必要がある。3年先のことを考えて、段階的に検討していくなど、現状を踏まえて検討をお願いしたい。
- 事務局：ぐるっとバスもあり方もそういった視点で継続的に検討していく。
- 参加者：たまらぼを運営しています。お願い事となるが、利用者が増えている状況で車両が足りなくなることが懸念される。市でハイエースを購入されたのであれば、利用できないか。使わせていただけると助かる。こまわりのきく車があるとよい。
- 事務局：ご意見、ご要望は、福祉担当課にも伝える。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上

平成 30 年度 交通に関する小川地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 8 日（金） 14：00～15：30

場 所：小川交流センターみのり

事務局：萩市、田万川総合事務所、日本工営㈱

ご参加：住民の皆様 22 名



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：資料 P9 及び P14 の堺というバス停は、田万川地域から対象外となっているが、田万川地域側である。また今回の資料は現状分析だが、これだけではわからない。今後の計画について市の考えを聞きたい。

事務局：指摘箇所については、誤り。指摘通りに修正する。また今回の資料は、様々な調査を踏まえ、資料の P 20 に今時点の将来像（案）を示している。具体的なぐるっとバスの運行については、今後検討したい。現状の移動実態として、須佐・田万川はいろいろある。益田への行き方も、石見交通、JR しか交通手段がない状況である。このような状況で、須佐・田万川が東部地域として一体的に運用できないか検討したい。また現状で、市をまたぐ幹線と、支線として、須佐・田万川を循環する路線バスがあるが、利用率は低い。またバス停が遠い等、利用しにくい面もある。このような状況で、地区間をつなぐ路線は、市や NPO 法人の運営で継続する等、様々な方向で結ぶ

必要がある。また高齢者が外出できる、家からバス停までいける交通体系も必要で、今はぐるっとバスのみだが、利用に制限があるので、別の交通手段、例えばコミュニティの支え合い等、いろいろな手法も含めて、家からでられる仕組みを検討したい。まずは高齢者が外出できる交通体系を検討したい。旧町村の枠組みを超えて検討すべきと考える。

また、担い手の確保をどうするか、地域の支え合いの取組も含めて、検討したい。現状、交通事業者だけでは事業経営が成り立たない状況もある。このような状況で、交通事業者と、地域住民と、行政3者が一体となって、様々な実施主体が融合した交通体系を作っていきたい。

高齢者が外出しやすい仕組みを検討したいので、福祉施策との融合も図る予定である。具体的な困りごとを踏まえて検討したい。このような状況で、今回、タクシー事業者の撤退に合わせて、12月から須佐地区のぐるっとバスの運行形態も変更した。ぐるっとバスの利用区域、対象区域を撤廃し、連絡してもらえれば、運転手の裁量で対応できるようにしている。但し1台で実施しているの、少し待ち時間もある。利用しやすさは向上したが、タクシーほどの利便性までは賄えないことを理解頂きたい。通院と買い物支援として、ぐるっとバスは十分ではないかもしれないが、利便性の向上は図っている。まずは高齢者の足の確保が重要であり、これらを踏まえて計画づくりに反映したい。

参加者：住民主体の支えあいで、幹線のところまで送迎する場合に、市からの補助があるか。

事務局：それはこれから検討する。住民主体の交通主体については進めていきたい。方法として、補助なのか、あるいはバスを貸して住民の人に運転してもらうことある。経費は市が出すなどの方法もある。

参加者：益田で入院した際に、運転免許のない妻が通院する場合、近所の運転できる人に頼んで、連れて来て頂いた事がある。家族で運転する人がいない、そういう本当の交通弱者のために、ぐるっとバスのような形が必要になるが、例えば、むつみかどこの行政区で、車両を貸出し、その地区の人が運転できるような仕組みがあると聞いた。小川地区でもできないか。

事務局：福祉政策の一環で、高齢者の生活支援として、総合事務所にはハイエースを配置しており、また、萩地域の周辺部の地域でも同様の車両を用意している。

参加者：車両を使う場合、運転手として総合事務所に登録する必要がある。須佐の総合事務所が所有する福祉の車は、誰でものため、破損率も高いといううわさ話も聞いたことがある。運転手も、町内でそれぞれの運転できる人を登録する必要がある。

事務局：例えば、須佐は弥富地区で、でっぴんの会等、高齢者をささえる実施主体があり、いろいろな支援を実施している。運転できる人を登録してサロン活動等への送迎も実施している。そういう実施主体の中で、運転手を用意して、運行している事例もある。

参加者：独居の老人で、お願いしたら、総合事務所の車を運転して、走ってもらえるような形を考える必要がある。

事務局：他市でも、自治会等で、運輸局に登録した上で、自家用有償運送で対応しているところもある。

参加者：昨年、救急車で益田の病院に行った事がある。地元でそういった車があれば、と思った。須佐でデマンドを実施しているが、どこで予約するのか、

事務局：興和産業で行っている。田万川では、直営での運営を検討予定である。また運転手は廃業される島田タクシーの方をお願いする予定。連絡先も含めて検討中。

参加者：旧萩市内では、まっあるバスの運行範囲の拡大の意見がある。現状どのようになっているか。

事務局：拡大の要望は聞いている。現状のバスは、30分間隔で走るようにしている。ただ、

今後は 30 分にとらわれずに、住民の利便性を高めることも検討している。ご意見を聞きながら、一旦見直して、どこに必要で、どういった形態ができるか再検討を図りたい。

参加者：まあ一あるバスの運行範囲が拡大すると、経費がかかると思われる。これらの経費が周辺地域の負担とならないよう、配慮頂きたい。

また、自家用有償旅客運送を地域で実施できないかとの話題もある。試行的に実施する際、行政にも関与していただきたい。モデル地区を作って、一つの組織を検討して頂きたい。ボランティアは単発的にできるが、長く実施するには、有償も必要と考える、地域での足の確保の良い策を検討して頂きたい。益田まではタクシーだと 1 万円かかり、バスだと 1500 円ほどかかる。一方で、益田の方でも生活バスの支援がある。これらのバスをつなぐような連携が取れるとよい。

事務局：過疎化・高齢化進んでいる地域での高齢者の足の確保は第一で考えたい。また実証運行の件も今後検討する。また福祉バスは、益田市のほか、また山口市でも実施している。萩市でも遠方になると運賃負担が大きいことから、これらを福祉施策と連携しながら検討する。またこれらの対策が利用促進につながるように検討したい。

参加者：自家用有償旅客運送とはどのようなものか。

事務局：公共交通は運輸局に届け出た事業者が運行できる。安心・安全の確保のためであり、運輸局が管理している。一方で、過疎地域では、交通事業者の運行が成り立たない。そのような状況で、交通空白地で、自家用車で運行できるのが、自家用有償旅客運送である。同じように、客から料金の徴収が可能。運輸局に登録して、団体は NPO 法人でも自治会でも可能である。

参加者：自家用有償旅客運送が自治会で出来るとよい。

事務局：実証の形で、できるところから実施を検討する。

参加者：現状の交通体系を見直してから、検討する必要があることは理解できる。一方で、公共交通が家まで行かないと、外出できない人もいる。最寄りの停留所まで連れていく必要がある。自家用有償旅客運送を実施する場合、一度市の方と話し合ってみたい。

事務局：もちろん、地域でお話させて頂けることがうれしい。江崎の地区社協で公共交通に関する住民講座を実施されたが、120 名参加された。小川での移動手段をどうするか、話す機会があるとよい。

参加者：小川は本当に切実である。小川ささえ隊としても話し合いを実施し、良い方向にできるとよい。

事務局：またゆっくり話がしたい。

参加者：なるべく早い機会でお願いしたい。

事務局：日程を相談の上、対応する。小川ささえ隊での取り組みは、福祉とも連携して、検討する。

参加者：田万川地域では、週 2 回しか診療所にお医者さんが来ない。その点は十分考慮した上で、移動手段を検討していただきたい。益田の病院に自家用車で通院しているが、5 年後 10 年後は厳しい。時代に合わせた対応が必要と考えている、その点もお願いしたい。また田万川、須佐は、益田市の病院を利用している。その点を考える必要がある。県境を越えるので難しいところもあるが、一緒にできることあれば実施して頂きたい。

事務局：アンケート調査では、将来的に 8 割の人が公共交通を利用する意向があるという意見であった。また益田が生活圏という実態から、これらの地域の実情に合わせた公共交通の検討が必要である。そういった意味では、利便性の高いのは石見交通である。そういう幹線はしっかり確保したい。高齢者にとっては家から出るところから大変であることから、あらゆる交通手段を検討して、できるところから、実証を検

討したい。計画に示す4つの方向性を踏まえ、検討したいと考えている。

4. 閉会

事務局：様々のご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上

平成 30 年度 交通に関する明木地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 13 日（水） 10：00～11：30

場 所：旭マルチメディアセンター

事務局：萩市、旭総合事務所、日本工営(株)

ご参加：34 名



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：旭地域の公共交通の路線で、市の補助金は年間どのくらいかかっているか。また佐々並地区は、ぐるっとバスをデマンド化したことで成果が上がっている。明木の方もデマンド化を進めてほしい。さらにぐるっとバスで直接旧萩市内まで行けると良い。特に病院まで行けると利便性が高くなるので、検討して頂きたい。

事務局：路線を維持するために、国、県、市が、赤字分の補助を捻出している。H29 年度では、全体で 1 億 4 千万円程度補助している。萩市の財政も厳しいことから、持続可能な対応を検討したい。

定時定路線型の運行は、次の便が来るまで、待つ必要があるが、デマンド化することで、帰りやすくなるメリットがある。デメリットは電話予約する必要があり、また運行側もオペレーションする人材が待機しておく必要がある。その中で、どれを選択するか、住民の利用しやすさを考えながら検討する必要がある。

ぐるっとバスで旧萩市内への直通は難しい。直通だと、路線バスと重複することな

り、路線バスの利用者減につながり、将来的に路線バスが維持できなくなっていくことになる。

地域内はぐるっとバスで対応し、旧萩市内をつなぐ幹線は路線バスで対応したい。

参加者：利用者の立場にたった回答を頂きたい。例えばぐるっとバスの有料化も検討してはどうか。バス路線の補助金額の減額も検討し、バランスをとった検討をしていただきたい。

事務局：ぐるっとバスの直接旧萩市内への利便性も高いが、公共交通は安全確保の視点から、交通事業者が、国の認可を受けた上で運行することが第一となる。一方で、過疎化が進む中で、交通事業者が実施できないような地域もある。このような中で、交通空白地域においては、交通事業者以外でも運行主体となれる制度として、自家用有償運送の制度もある。

参加者：高齢者の生活支援バスとして、セレナを配置しているが、利用するための条件が多い。市の許可を受けているものでないと、運転できない。以前佐々並と明木でそれぞれ1台ずつの配置をお願いした経緯もあるが、利用率の低さから、増台は難しいとの意見もあった。もう少し利用しやすくすると、利用率が上がるのではないかと。条件緩和が必要でないかと思われるがいかがか。

事務局：各総合事務所や大井地区に車両を配置している。福祉の介護保険制度を利用しており、その仕組みの中で、住民主体の高齢者の支え合いの促進を踏まえ、配置されているものである。また利用者も要支援1、2等の認められた人が対象などの限定がある。運転手も安全性の確保から、運転される方を登録して、運行しているのが実情である。福祉の介護保険制度での運用であるが、これ以外でも住民の支え合いによるコミュニティ交通を確保できないか、検討を進める。自家用有償旅客運送の運行も検討する。幹線、ぐるっとバス及びそれ以外の住民間の支え合いも含め、様々な移動手段を融合した交通体系を検討する。

参加者：今回のデータにあるように、幹線の利用料金が低い。また防長交通の乗降口が高すぎて、高齢者の人が乗りにくい。ご高齢のかたは荷物をもった状態で、乗降しにくいと聞いている。

また、バスを利用する場合に明木には13時3分の壁がある。13時3分に萩から明木地区に帰る路線バス（13:03バスセンター発新山口駅行き）に乗れないと、ぐるっとバスとの接続が悪く、家に帰れないことがある。

また明木のぐるっとバスの周知が少ないのも、利用率の低い要因である。現状のぐるっとバスでは、診療所にしか行けないと勘違いしている人もいる。

住民の助け合いで、セレナを活用して、支線としての助け合いができればと考えている。ただし、白タクとの兼ね合いもあって進んでいない状況もある。旭大学という、高齢者向けのまちの学習会なども実施しており、免許の自主返納や、公共交通の勉強も実施している。路線バスに乗る勉強会などを実施しており、バスが必要になる前からの働きかけも必要と思われる。

事務局：利用料金は、特に遠いところほど負担が大きいので、利用促進の面も含め、福祉施策も踏まえながら、利用者負担を考えたい。旧町村部は同様の意見が多い。防長交通の乗降の問題については、交通事業者にも伝える。

事務局：13時3分のリミットについては、ぐるっとバスの運行体系を確認した上で、幹線と支線の乗り継ぎも含めて、利便性の向上を検討したい。

ぐるっとバスの周知については、周知活動を進めたい。高齢者が目的地に行ける仕組みが必要で、わかりやすい交通体系づくりに務める。

また住民の助け合いも含め、様々な交通体系を組み合わせた上で、足を確保したい。

またそれを担っていく組織が必要で、支え合いの体系づくりも含め、大きな課題となっている、事業者、行政だけではきめ細かい対応が難しいので、3者が協力した

体系を検討したい。旧町村部の利用者負担の在り方は、大きな課題と考えている。旭地域の勉強会の開催は、非常にありがたい。高齢者の方がわかりやすい交通体系を検討する。今後とも移動手段について、ぜひご意見を頂きたい。

13時3分のリミットについて、ぐるっとバスをデマンド運行に変えることで、接続を見直すこともできる。またぐるっとバスが担うのか、地域のコミュニティが担うのか、検討が必要。

運転免許返納が促されるよう、市も主体的にかかわりながら検討したい。須佐地区では民生委員の方が寸劇方式でぐるっとバスの乗り方講座を開いたこともあり、このようなモビリティマネジメントの考え方も交えながら検討を進める。

参加者：明木は、防長交通、中国 JR バスが走っており、便数も多いが、時間帯がかなり重なっている。通過時間帯にムラがあるので、これらの解消ができないか。

また赤字路線を走らせるたびに、補助金を補てんしているが、利用料金そのものを下げることで、補助金を減らすことはできないか。

事務局：広域幹線は新山口駅との接続に考慮して時間を設定しているので、交通事業者との話し合いが必要となる。利用者が使いにくい、料金が高いなどの課題も散見される。

今の路線の運行体系を踏まえ、事業者とは検討を進める。

いずれにせよ、足の確保は必要であり、ニーズに応じた運行が必要となる。広域幹線、支線を含め、効果的な運行体系を検討したい。市・事業者、住民が一体となって移動手段を確保していき、また利用しやすく、利用促進に繋がるような体系を検討したい。

赤字路線による財政負担が増える状況で、運賃を下げることで、利用者が増えた先進事例もあることから、このような事例を勉強しながら、利用しやすい状況を検討したい。

参加者：防長交通は、快速が止まらない。停留所もあるので、止まってくれるようにするとありがたい。

事務局：現在明木を通過する便は、秋吉台行きの快速便を除き全て、各バス停に止まっている。新山口駅に向かうバスも停車している。秋吉台行きの普通便への変更など、それぞれのバスの運行体系の見直しを検討する。

参加者：萩近鉄タクシーが、旧萩市から宇部空港行きのシャトルタクシーを運行しているが、明木には停車してくれない。一方で、大井には迎えに行っているとの情報もある。旧萩市内に行くのは時間がかかるため、対応していただけないだろうか。

事務局：以前、萩近鉄タクシーに明木での停車を頼んで断られたことがあると聞いたことがある。近鉄タクシーに一度確認する。

参加者：山口のほうは、高齢者に対し、100円バスを運行しており、山口在住の高齢者はどこでも行けて助かると聞いている。また高齢者は、100円に割引してもらった分、お土産を買って帰るなどの例も聞いている。明木の高齢者もそういった制度を利用できるとありがたい。

事務局：山口市では高齢者の人に対し、福祉の施策として、70歳以上の高齢者が100円で移動できる制度をとっている。今回周辺部の方は、バス路線の費用が割高となっているので、福祉施策とも連携した、利用者負担の在り方も検討したい。高齢者が利用しやすい料金体系を検討する。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上

平成 30 年度 交通に関する佐々並地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 13 日（水） 14：00～15：30

場 所：旭活性化センター

事務局：萩市、旭総合事務所、日本工営㈱

ご参加：住民の皆様 63 名



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：P18 の自家用有償旅客運送とは、どういったものか。

事務局：本来、客を乗せて対価をもらうのは、道路運送法に基づく、認可をもらった交通事業者のみ可能である。一方で、過疎地域では事業者だけでは運営が成り立たないので、自家用車を使って有償運送をできる仕組みがある。自家用車を使って、有償で運送が可能のように運輸局に登録する制度となる。現在は制度が緩和されており、NPO、自治会、任意団体含めて、登録を受けた上で、一種運転免許で輸送ができる制度である。交通空白地域における、特別な措置である。公共交通を確保するために様々な施策を行っているが、追いつかない状況があり、利用者は減少する傾向である。一方で将来的には 8 割の方が公共交通を使う意向はある。これらを踏まえて、広域幹線を維持しながら、ぐるっとバスの運行の在り方や福祉施策の在り方、また住民間の助け合い等、様々な移動手段を含めて、地域の足を確保したい。

参加者：具体的には、どのような形になるのか、団体は必要か、もしくは個人でもできるものなのか。

事務局：個人ではできず、団体として登録する必要がある。安全性の確保が課題だと思われる。登録を有しない運送は、対価をもらうことはできない。例えばAがBを送迎する際に、決められた金額を受け取ることが出来ない。ただし、相互扶助、いわゆる謝礼の範囲で、自発的にお礼をするのは、誰が運転しても問題はない。一方で、自家用有償旅客運送は、自家用車を使って輸送してお金を受け取れる仕組みである。

参加者：例えば10kmで1000円といった設定でも届け出が必要なのか。

事務局：あらかじめ料金を設定する場合は、自家用有償旅客運送に該当するので、登録する必要がある。

参加者：そういう体制を作るとした場合、市として対応する構想はないのか。

事務局：自家用有償旅客運送登録制度を利用して、自治会で実施するのも一つの方法と考えている。住民の支えあい等の福祉の視点も踏まえ、あらゆる手段を含めて検討したい。なお登録しないで、誰でも運送できるのは、あくまで、輸送に対する料金が決まっていない場合のみである。ガソリン代の実費をもらう事も可能。一方で、対価をもらう場合は、安全性の確保、お互いの信頼の確保のため、運輸局の登録は必要。公共交通は安全性第一となる。

参加者：ぐるっとバスだが、舞谷方面はコースが右回り、左回りのみで、ルートによっては遠くなるので、使いづらく、乗客が少ない。(幹線の)バス停が近い方に出してくれるようなルートがあるとよい。

また山口市は、1回100円で高齢者が自由にバスに乗れる制度を実施している。そのような形で、地域内を走るバスは、どこまで行っても100円で行けるようなバスがあるとよい。現在、佐々並の商店街は全部なくなった。役場も農協も郵便局も合併してなくなった。全ての公共交通機関がなくなった。今は、萩のアトラスあたりに出るしかない。長小野方面の人は湯田へ行く人もいる。また山口市に行く学生も多い。また2次、3次救急は山口市の方がそろっている。通勤で山口市に行く人も多い。そういった面も含めて、町村の中にいる人間をどうにか助けるかを検討してほしい。

事務局：公共交通の届かない交通空白区地域には、ぐるっとバスの運行体系を定時定路線もしくはデマンド化とするか、あるいは自家用有償旅客運送とするか、住民のニーズと利便性を踏まえて、今後見直しを検討する。現状の構想案の図は、地域間を大きくつなぐ幹線と、地区内を結ぶぐるっとバスや地域コミュニティ交通などの支線で、全エリアをカバーできるように記載している。住民のニーズに応じた公共交通をつくる必要がある。

また山口市の100円だが、福祉施策で実施している。佐々並の方からみると、かなりの運賃格差がある。料金は、周辺部では割高になっており、福祉施策と連携しながら利用者負担の在り方を検討する。

佐々並は山口市が経済圏であることは承知している。地域によって移動したいところが異なる。最終的に目的地にいけるような仕組みを検討したい。地域の実情に合わせた検討を進めたい。

参加者：料金が足りない部分は税金で賄うことも検討していただきたい。

事務局：幹線は維持する必要があるので、市が赤字を補填してでも維持していく。地域の住民の生活に合った運行体系には見直す。

参加者：現在、路線バスが東萩駅まで行かず、明倫センターどまりになっている。明倫センターどまりになっている理由は、市がバス事業者への負担金を出さなかったためと聞いている。

また山口市は、70歳の方は100円でどこまでもいける。萩市は一切しない。萩市に

買い物に行く事はない。医療機関も山口市に行く。バスも 400 円ぐらい料金が異なるため、自然と山口市に行ってしまう。

事務局：萩市でも、路線維持のために相当の補助金額を負担している。移動手段の確保のためであり、防長交通も中国 JR バスも黒字路線はない。国県市で負担しながら維持をしている。

中国 JR バスは、H28 年 10 月から、新山口駅行きのもので、東萩駅止まりだったものを、明倫センターどまりに変更した経緯がある。その後、色々な利用者からの苦情があったため、H29 年 10 月から戻した経緯がある。現在は東萩駅まで止まるようになっている。

参加者：本庁に行くことが多いが、「17 時に再来庁するように」と言われたことがある。この場合、帰りのバスがなくなるので、ぐるっとバスが、月 1 回でも 2 回でも、本庁に行くようにできないか。

事務局：現状、家から目的地まで行くのが利用者のニーズであるが、現状の交通体系は、第一は、公共交通事業者が担い、その運行外の範囲をぐるっとバスが運行することになる。ぐるっとバスが萩に運行すると、路線バスと重複して、路線バスの利用者がなくなる恐れもある。交通空白地域をぐるっとバスが担う役割であり、ぐるっとバス自体が萩に行くのは難しい状況である。

参加者：幹線路線だが、交通事業者は民間企業であることから採算が合わない場合、撤退することも考えられるのか。赤字になった場合、究極は廃線になるのではないか。純然たる公共交通ではない。民間が実施している路線である。民間企業は利益を追求する。それに対し、補助金を出しているが、採算性、費用を自前でコントロールできる交通体系を考えられることができないか。また昨年、アンケート等の活動をしているが、これらの対応をもう少し早く実施して頂きたい。事業実施するのに、3 月に予算が決まる。実施は、来年のことだが、早く、長く、住民の意見を吸い上げてほしい。市長は市民ファーストとのことなので、きめ細かい対応をお願いしたい。

事務局：公共交通は、市としても確保が必要なので、かなりの補助金を出して維持をしている。今後も幹線は維持したい。

また今回の公共交通の見直しのため、アンケート調査や乗り込み調査など、様々な調査を実施したが、ある程度方向性、話ができる段階まで整理できている。計画を作っていく前に、ご意見を頂きたい。どのような意見でも指摘もいただいて、検討を進めたい。いずれにせよ、皆様のご意見を踏まえて、公共交通を検討したい。計画は 12 月に策定予定だが、例えばぐるっとバスの充実など、できることは前倒しで検討する。ただ、大きな仕組みの変更は、計画の中で検討して、H32 年度の予算で検討したい。

参加者：ぐるっとバスは市の事業で実施しているが、そういった自前の事業を、民間の事業者にも頼らなくてもできないか、あるいは民間事業者にも頼るのか、考えをお聞かせ頂きたい。

事務局：佐々並のぐるっとバスについては、市の職員が運行している。運営主体の考え方も検討したい。事業者にも丸投げではうまくいかないと思う。

参加者：自家用有償旅客運送については、運転者の資格が必要とのことだが、そのような人材を置いてくれるのか、あるいは資格取得のための勉強をさせていただけるのかお聞かせいただきたい。また明木には車両（日産セレナ）があり、使い勝手がよいが、佐々並には車両がない。

事務局：自家用有償旅客運送は自治会でも運行でき、また第 1 種普通免許でも、運輸局が指定する講習を受講すると、実施可能になる。明木のセレナは、生活支援の視点で、介護保険制度総合事業の住民支えあいの一環で、旭地域に配置されている。利用はお互いにして頂きたい。総合事務所に各 1 台配置している。住民の支えあいによる移

動手段の確保として、各地域に配置している。

参加者：自家用有償運送による運転手ボランティアは、地元の活動とするしかなく、高齢者で対応するしかないと思われるが、年齢制限はないのか

事務局：年齢制限はない。担い手確保が一番課題なので、自家用有償運送で賄えるといっても、仕組みができないと、交通体系として確立できない。これらも交通手段の一つとしてその他の方法と融合させて検討したい。

参加者：セレナだが、明木にあると借りて返すのに二度手間となるので、佐々並にもおいておけるよう検討していただきたい。

事務局：地域の要望として福祉に伝える。

参加者：ぐるっとバス、スクールバスは、土日祝日は休みであるが、休日も検討頂きたい。休日に風邪を引いた場合、自分の車で行くようにしている。また、買い物も土日祝日が多い。そのあたりの確保をお願いしたい。

事務局：ぐるっとバスは、土日祝日は運行していない。主な目的は通院・買い物、特に通院の観点で平日のみである。ご指摘については、様々な交通体系を踏まえた上で検討する。

参加者：萩市の財政負担が増加傾向にあるとのことだが、P10を見ると、佐々並地区の住民は中国 JR バスを利用しており、市の負担額は僅かである。佐々並地区としては侵害である。須佐田万川では、市の財政負担が増加しているとのことだが、佐々並地区は、決して市の負担の補助が多いという状況ではないことを確認頂きたい。

また山口市においては 100 円バスの運行で、年間 1 億 5 千万円、一日当たり 400 万円の負担となっている。山口は人口 20 万人、萩市は人口 5 万人で、規模 4 倍の差がある。行政機関が交渉して、萩市は 4 分の 1 の負担で抑えるなど、交渉して頂きたい。この 100 円バスを利用して、佐々並の道の駅にこられる山口の人も多くみられる。かなりの交流も起きるのではと思われる。基幹的なバス路線として残しながら、山口市と早めに相談して頂きたい。

事務局：中国 JR バスは利用が多く、運賃収入で 5 割以上あるが、萩市全体の路線を考えると、財政負担は多い。路線ごとに、効果的な運行が出来るように、検討したい。また、周辺部は利用者負担が多いことは認識している。見直しに当たっては、萩市全体の利用者負担も考えていきたい。

参加者：停留所では、トイレや屋根がないことが問題となっている。道の駅あさひであればトイレ、駐車場もある。防府方面では、ゆめタウンまでバスが入っている例もある。佐々並のバス停は、トイレもないし、よく遅れるのため待つのが大変。道の駅にはトイレを含めて全てがある。

事務局：佐々並のバス停は、乗降が多いのに環境が良くない。道の駅での接続で、事業者やぐるっとバスも道の駅に接続できれば、利便性も高まると考えている。道の駅あさひへの路線バスの乗入れは、かねてより要望を頂いている。JR バスと県と現場立ち合いで協議している状況である。

参加者：道の駅では観光バスがよく停車しており、30 人ほどの乗客が乗り入れしている状況もある。このような状況で、路線バスが止まると敷地が狭くなる。バス停として利用するなら、もう少し駐車場を広く確保する必要がある。駐車場を今の広さ以上に、土地を広げるよう、造成して頂きたい。

事務局：道の駅の機能維持をできるように、路線バスを停車できないか、事業者と県と協議しながら進めている。大型バスが止められないと、道の駅の機能がないので、検討していきたい。

参加者：道の駅だが、足の不自由な人でも利用しやすいよう、早急に対策をお願いしたい。歩道を広くして、駐車場で邪魔にならないように早くして頂きたい。また JR バスの乗降も年寄りには難しい。対応いただきたい。

セレナの件では、明木は佐々並から距離が遠く、借りに行ったり、戻したりすることが不便で、あまり利用できない。検討していただきたい。

また、診療所へ行くのに、車を利用する必要がある。佐々並は山口市が経済圏であり、バスで高齢者夫婦でいくとなると2人分の料金が必要となる。使いやすい車を配置するか、あるいは料金的な支援をお願いしたい。

透析患者では、週3回病院に行く必要がある人もいる。そのような人の対応をどうするか、そのあたりの検討もお願いしたい。自家用有償旅客運送について、許可、登録するにしても、市として率先して対応して頂きたい。サロンを実施する際、60人もの参加者がいる。これらの人たちが外出して話をできるような対策をしていただきたい。

高齢者の免許書返納対策については何かあるか。これらの対策も検討していただきたい。人口が減り、高齢者が多い。生活に困っており、意見交換しただけではだめなので、実行して頂きたい。

事務局：バスに乗る際の補助は、介護の資格が必要である。但し、車両のステップ低くすることは、バス事業者に対応を依頼する。透析患者の関係は福祉と協議ながら検討したい。山口の料金格差については、福祉施策、利用促進策も含めて、検討したい。今回の方向性の案にも記載しているところである。

参加者：観光バスの乗降は高齢者には不便である。ステップを設けるなど、高齢者の対策としてできないか。

事務局：ステップ、手すりの設置など、手法はあるので、バス事業者に伝える。

参加者：住民主体の交通に関する有償ボランティアだが、こういうことができる機関が萩市にはあるのか、あるいはこれから作るのか。

事務局：商工振興課に連絡いただければ、対応する。商工振興課に問い合わせいただきたい。

参加者：佐々並地区で、デマンド便の内容、窓口をご存知の方、どの程度いらっしゃいますか。

参加者：参加者のほとんどから挙手なし（デマンド便の認知がほとんどされていない）

参加者：デマンド便自体が浸透していない、周知されていないのが、現状である。例えば「電話一本送迎便」などの、分かりやすい名前にしてはどうか。

事務局：ほとんどの方がデマンド便を認識していない現状であり、市としても周知の取り組みを進めるが、例えば須佐では、民生委員の方が寸劇方式で、デマンド運行を周知する取り組みを実施している。また実際に予約や利用の仕方を体験するような取り組みが必要である。ちなみにデマンド便とは、総合事務所に電話して、何時に迎えに来てもらうか伝える。その後、ぐるっとバスが来て、買い物、診療所へ送るシステムであり、帰りも送迎してくれるシステム。電話で予約して使える仕組みである。知っている人はずっと使っている。デマンド便を知らない新規者が増えないのが課題であると考えます。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上

平成 30 年度 交通に関する福川地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 14 日（木） 10：00～11：30

場 所：福栄保健センター

事務局：萩市、福栄総合事務所、日本工営(株)

ご参加：住民の皆様 8 名



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：萩～吉部間は 10 便あるがあまり乗っていない様である。要因は分かるか。

事務局：運賃が高いことが要因ではないかと思う。片道 1,120 円となっている。なお、高校生は定期代の補助があるが、高齢者対象の補助はない状況。

参加者：路線バスのダイヤは通学には便利だが、一般利用者、特に通院には時間帯が合わないから利用が少ないのだと思う。また、ぐるっとバスと萩のまあーるバスの連携がなっていない。まあーるバスは東光寺まで来ているが、それとつなぐ方法があるのではないか。萩に行く理由で一番多いのは病院だと思う。路線バスの時間が悪いから利用が少ないのだと思う。大井経由は、萩～大井間の利用が多い。紫福からお客は乗っているが大井を回るから時間がかかる。

事務局：路線バスについては、福栄からの運賃はそれほど高くないため、ダイヤがニーズに合っていない可能性はある。吉部と東萩駅間のダイヤは改善の余地があると思うので、交通事業者との協議が必要となる。具体的に何時の便の話か教えていただきたい。

参加者：旧萩市内 13 時発の便は時間が悪いと思う。堀越 14 時発も時間が悪いと思う。

事務局：吉部には防長交通の営業所があり、東萩駅と吉部間を結ぶバスも運行されている。

経路地の見直しにより、バスを効果的に活用する方法を考える事は重要な課題である。なお、阿武町との合併により、堀越以降の路線が無くなり、その名残もあって経路地が多岐にわたっているとのこと。大井を経由せずに押原経由で旧萩市内に行けるようにという要望は承知した。

ぐるっとバスとまあーるバスの連携は重要な視点だと思うが、ぐるっとバスは交通空白地を埋める路線であり、ぐるっとバスとまあーるバスが接続して旧萩市内まで結ぶと、路線バスと競合してしまう。

参加者：ぐるっとバスは山崎付近では路線バスと同じ道路を通っているがどう違うのか。

事務局：旧萩市内への地域間路線は交通事業者で担う路線として必要であるため、ぐるっとバスで旧萩市内とは結べない。ご指摘の競合している部分は、地域内路線であるので役割が異なる。

参加者：地域をどうとらえるかではないか。「福栄地域」ではなく、「萩市」全体で考えてはいかがか。「福栄地域」とするからぐるっとバスの利便性が低下しているのではないか。

事務局：地域間路線は交通事業者に担ってもらう路線である。あくまでぐるっとバスは交通空白地対策として運行しており役割が違う。ただ、この仕組みの中でより利便性が上がるように検討している。

参加者：理解できるが、住民としては歯がゆいところである。

事務局：資料 2 P19 の将来像のように、幹線は幹線で検討が必要だが、支線の運行形態もより住民ニーズに応じた形を検討する必要がある。すべてのニーズをぐるっとバスだけでは満たせないなので、あらゆる手段を検討して支線交通を検討していきたい。

参加者：ぐるっとバスはコミュニティバスという理解でいいか？

事務局：そうである。

参加者：ぐるっとバスはバス停が決まっているのか。

事務局：バス停が決まっている。

参加者：ぐるっとバスのバス停の位置が地域内で本当に利便性が高い位置かは疑問がある場所もある。バス停の位置は見直せるのか。

事務局：見直しは可能である。

参加者：降車時もバス停なのか。

事務局：基本はバス停だが、家の前で降りてもらっている場合もある。デマンド運行時もバス停での乗降を基本に、ご自宅の近くにも伺っている。但し、車両が大きいため、自宅付近に乗入れられない場合もある。

参加者：地区社協で話題になるのは、ぐるっとバスの利用が少ないということと、路線バスの時間が悪いということ。結局タクシーで旧萩市内に行くので往復で1万円かかる。

事務局：福栄地域のデマンド便の利用方法については、デマンド便は住民の方へ理解して頂くことが難しいことと、2日前の予約が必要で利便性が悪いと思っている。

参加者：あまり利便性を上げすぎると、費用等の問題があり限度があるのではないか。

事務局：利便性向上の余地はあると思っている。

参加者：むつみ地域から参加している。むつみ地域と福栄地域ではぐるっとバスの運行形態に違いがある。旧萩市内に行く方は路線バスの時間に合わせてデマンド便を利用している方が多い。

事務局：各地域でぐるっとバスの運行形態は異なる。デマンド便のメリットは時間が緩やかに指定できること。運行側としては、多くの利用者を回らなければならず苦労はある。利用方法が周知されているかということは課題だと感じており、周知を図る必要性を感じている。また、現在の運行形態の改善について検討したい。

参加者：ぐるっとバスは利用したことないが、将来利用する可能性があると思い参加した。ダイヤを見ると所要時間は往復で約1時間となっている。時間に余裕があるように見えるので、午前中の便を増やすようなことはできないのか。

押原経由の路線バスは朝の便は早朝で使いづらい。

また、福井から紫福への便は少ない。農協が紫福にあるので移動する人はおり、マイカーがある方はいいが、無いと利便性が悪い。

防長交通は利用が少ないのであればバスを小型化すると経費が抑えられるのではないか。

参加者：むつみの農協が紫福に統合されたため、むつみと紫福間を結ぶルートがぐるっとバスで運行されるようになったが、紫福での待ち時間が長く利用者が少ない。

事務局：ぐるっとバスの効果的な運行を行う必要がある。地区内路線については、ぐるっとバスの他にも自治会での自家用有償旅客運送やスクールバスへの混乗なども考えられる。コミュニティ交通はよりきめ細かいニーズを支えたい。ぐるっとバスや住民の支えあい交通、NPO など含めて、総合的に検討したい。

車両の大きさの話について、ぐるっとバスは利用が多い便もあるので今のワンボックスサイズを使用している。他の便でいくら利用者が少なくても、最大需要に備えて今のサイズになっている。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上

平成 30 年度 交通に関する紫福地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 14 日（木） 14：00～15：30

場 所：福栄営農研修室

事務局：萩市、福栄総合事務所 日本工営(株)

ご参加：住民の皆様 10 名



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：朝の旧萩市内方面行き路線バスは畑バス停 9 時台発であり、萩市街地の病院着が 10 時半頃となってしまう。以前と同じ 8 時台に畑を出るダイヤに戻ると嬉しい。

事務局：ご意見いただきありがたい。路線バスについて、現在は大半が大井経由だが、押原経由でより早く旧萩市内へ行けるよう検討している。ダイヤも合わせて検討したい。

参加者：路線バスの運賃が高い。バス運賃の補助があると助かる。

事務局：ご負担になっているのは十分理解している。

参加者：最近旧萩市内の歯医者に通っているが、自動車で行っている。これがバスで行くとなると往復 2000 円となってしまう。歯医者診療代自体は 100 円なので、それと比較するととてもバスでは通えないと感じる。

参加者：高校生は、朝は親と一緒に車で行き、帰りはバスだと聞く。しかし、部活をやると旧萩市内からの帰りが後 15 分程度遅くないと乗れないと聞いたことがある。（紫福支所では 18:20 萩センター発 19:14 堀越着が最終便、福栄総合事務所や吉部方面は、18:40 萩センター発 19:18 吉部着が最終便）

事務局：学校に部活の帰宅時間を確認して、可能な限りバス会社と調整してみたい。

参加者：自家用有償旅客運送の話はどこまで進んでいるのか。萩市の議会便りで読み、気に

なった。

事務局：自家用有償旅客運送制度は、本来交通事業者が担うべき地域の足が、過疎地域であるということで提供されない場合に、代替手段として自治会や NPO が担い手として運送ができるという制度である。一番重要なのは担い手である。市としては様々な手法を組み合わせたい。例えば今はお金を受け取らずにボランティアでやっている方などもいらっしゃるが、そういう方々もお金を受け取ることができる。ただ、まだ具体的な話は進んでおらず、今後様々な議論を重ねて、例えば担い手がいる場所では実証運行なども考えられる。運転する方も無償ボランティアでは持続性が無い。

参加者：運賃が高いということであるが、山口市では高齢者は路線バスの運賃が一乗車 100 円である。同じようなことが萩でもできないか。

事務局：山口市は福祉政策としてやっている。萩市でも福祉施策と連携して検討していく。

参加者：100 円でなくてもいいので、負担感が無いようにお願いしたい。

参加者：交通事業者に補助するくらいなら、利用者に補助する方がいいのではないか。

事務局：まずは交通事業者が路線を持続できるように、事業者に補助金を出している状況。現在は各地域でばらばらの利用者負担に関して、萩市全体で利用者負担のあり方を検討して、利用者向けの補助を考えたい。ただ、明日からすぐということにはならないのでご理解をお願いしたい。

参加者：タクシーの利用補助はあるのか。

事務局：高齢者向けではなく障がい者向けではある。

参加者：運転免許証を返納したら何か恩恵は無いのか。

事務局：別の自治体ではあるが、萩市ではそのような制度は無い。

参加者：防長交通の運転手に聞くと、とにかく利用者がいないとバスが維持できないと言われたが、運賃の負担感があると感じる。

参加者：ぐるっとバスの件について、月曜日の運行（堀越・中山方面）だと、祝日が多いので運行日が少ない。月曜日自体は用事が多い曜日なので利用したいが、月曜運休する場合は火曜に振り替えなどできないのか。

参加者：サロンは月 2 回やっている。ただ、サロンに高齢者を送迎する運転手の確保が課題。ボランティアでもいいが、続かない。運転する人も 65 歳を超えている。何年続くかわからない。全てがボランティアではできないと感じる。

参加者：利用者もある程度お金を出す制度というのもあっていいと思う。

参加者：運営側にとっては、担い手が大きな課題と感じる。今回の資料にあるアンケート結果で、将来の運転に対し不安が無いと感じている方の割合が大半だが、危機感が無いと思う。車を運転できるうちから公共交通についても考えていくべき。車が運転できなくなってから考えるのは遅いと思う。交通の問題だけではない。福祉の問題などとも連携を取って、様々な面から考えてほしい。

事務局：福祉施策の総合事業で住民主体の支えあいを進めているが、福祉では有償化の発想はない。ただ、地域の足の確保の場合、住民主体でやる際も無償では長続きしない。持続可能な体系を作っていくために、住民や自治体を含めた自家用有償旅客運送を考えていかねばならないと考えている。

参加者：高齢者はごまかしごまかし運転している。

事務局：どこの地区社協でも話題になるのが移動手手段についてである。先日、移動手手段をテーマとした田万川地域での住民講座に 120 名もの参加があった。危機感、不安感がある中でやっている地域もある。危機感の度合いは違うが、将来公共交通の利用意思があると答えた方はどの地域もアンケートでは 8 割を超えている。

参加者：ぐるっとバスの利用にあたり、歩行自体が難しくなっている方はどの程度の方まで乗車可能なのか。同じ地域内で、病院を退院したばかりで、スーパーに行きた

いが歩行が非常に危うい方がぐるっとバスの利用を断られていた。その際は、スーパーなどの買い物に行く足が無い状態であった。

事務局：ぐるっとバスはどなたでも使える。ただ、介助しないと乗車できない場合は難しいところがあるかもしれない。運転手によっては融通がきく場合とそうでない場合もある。介助が必要な場合、運転手は停車時に車道側から出入りしなければならないため、頻繁にあると危険だと感じる。

参加者：ぐるっとバスの一部車両に4WDでない車両があると聞いた。

事務局：計画的に車両は更新している。

参加者：以前、ぐるっとバスの周知のために、時刻表を拡大してコピーしたものを地区に配ったことがある。利用が少ないのは何か問題点があると思う。

事務局：地域の実情で異なるが、紫福地区は定時定路線が定着している。民生委員が寸劇をして、デマンドの使い方を教えている地域もある。

参加者：無料の場合、高齢者にとって電話して迎えに来てほしいと言いつらい部分があるのかもしれない。自分のためにわざわざ来てくださいというのは非常に気兼ねする。無料だとなおさらである。

参加者：せっかくぐるっとバスがあるのであれば、利用しやすいように運行方法を変えるなど、一回大きく見直すことも考えられないか。

参加者：ぐるっとバスは少しお金を取ってもらったほうが良い。

事務局：交通事業者と協議は必要であるが、有料化は可能である。

参加者：地域内の診療所では診てもらえない場合もある。旧萩市内までぐるっとバスがあればいいが、交通空白地でなければ難しいというのを知っている。ちなみに萩のまあるバスはどういう制度なのか。

事務局：市街地の循環線として、交通事業者と協議をした上で運行している。

参加者：山口市方式が良いと感じる。(高齢者は路線バス100円/1乗車)昨夏のアンケート結果は早期に反映されるのか。

事務局：料金に関しては事業者との協議や予算が必要なため、すぐには対応できないのはご理解頂きたい。ぐるっとバスの見直しは、可能な部分はできるところから見直していきたい。

参加者：防長交通は、大きな車両でまるで空気を運んでいるように感じる。小型のバスを走らす事はできないのか。

事務局：交通事業者に向うと、車両更新が難しいとのこと。また、運行経費の大半は人件費であるため、一概に小型化が大幅な経費の削減にはつながらないこともある。

参加者：今回の網計画策定後、実施はいつからか。

事務局：H32年度当初予算から計画に基づき、順次事業を実施していきたい。ぐるっとバスの見直しなどはできるところからすぐにやっていきたい。

参加者：ぐるっとバスと路線バスが結節すれば利用しやすくなる。便利なら利用すると思う。

事務局：承知した。

参加者：バス停は屋根付きの箇所があるが、雨漏りしないように改装できないのか。また、時刻表しかないところがある。

事務局：拠点となるバス停は、待合ができる環境を整えなければならないと考える。既存の公共施設に乗り入れるなど、工夫次第で待合環境は改善できると思う。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上

平成 30 年度 交通に関する川上地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 21 日（木） 10：00～11：30

場 所：川上公民館視聴覚室

事務局：萩市、川上総合事務所、日本工営(株)

ご参加：住民の皆様 29 名

報道関係：萩ケーブルネットワーク



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：私は後期高齢者で、将来的には免許返納を考えておりますが、ぐるっとバスは将来的にも続けていくのでしょうか。

事務局：ぐるっとバスは交通空白地域の移動手段として今後も運行する。但し、ぐるっとバスだけで自宅から目的地までの移動を全て網羅するのは難しいため、様々な移動手段を検討する。

参加者：川上地区内にある JA の窓口機能が旧萩市内にある JR 南萩支所に統合された。JA 南萩支所に行きたいが、最寄バス停である椿町バス停には路線バスで直接行けない。（防長交通の萩バスセンター～阿武川温泉・惣良台線は、椿町バス停を通過していない）。

長門峡北口バス停へぐるっとバスで行けると便利になる。（長門峡北口バス停には、防長交通の新山口駅～東萩駅前線、秋芳洞～東萩駅前線や中国 JR バスの防長線が通っており、直接椿町のバス停まで行くことが可能）

事務局：現在ぐるっとバスの全 5 ルートのうち、1 ルートしか長門峡北口に乗り入れておらず、今後乗り入れを増やしていくことを検討する。

参加者：JA が合併して、椿町までぐるっとバスを回してもらえないか話したことがある。

事務局：長門峡北口は交通結節点として重要であると考えている。現状では、ぐるっとバスの接続が十分ではないため、改善する必要があると認識している。また、ぐるっとバスを旧萩市内まで延伸してほしいという話があったが、ぐるっとバスは交通空白地域の移動手段であり、路線バス事業者の経営を圧迫するため難しい。

参加者：江舟地区に住んでおり、ぐるっとバスが現在一日 2 便しかないため、夕方 16 時まで帰ることができない。総合事務所、農協で用事があっても夕方まで戻れないという問題がある。昼の便を増やしてもらえれば利用がずいぶん改善されると思う。用事が終われば 1 時間でも早く帰りたい。それを 3 時間、4 時間も待たなくてはならない状況を改善してほしい。

事務局：昼の便があるのは週 1 日しかないので、他の日でも昼の便を増やしてほしいということか。

参加者：はい。今は車を持っている人に送迎をお願いしているが、お互い歳のためいつまでも運転できるわけではない。どうかしてほしい。

事務局：ぐるっとバスについては今後検討したい。思った時間に行けて、帰れないという状況がある。現況は 1 割の方しか公共交通を利用されていないが、今後 8 割の方が公共交通を利用したいというアンケート調査結果になっている。移動手段の確保は、住民主体の移動手段も含めて検討していきたい。

参加者：江舟は 1 便あたり 4.6 人の利用者がいるという結果が出ている。他地区に比べても利用者数が多いため、よろしくお願ひしたい。

事務局：バスの段差が高く、高齢者には乗りにくい。

事務局：他地区の意見交換会でも、補助台を出してほしいという意見があった。

参加者：現行ではステップがでるようになっている。

事務局：地区内の移動手段の確保を目的に、介護保険制度で地域の移動を支えあう事業があり地区社協でも取り組みが始まろうとしているため、連携していきたい。

参加者：ぐるっとバスの利用が少ないという見方もありますが、診療所に毎日行くだろうか。普通の人は二週間に 1 回程度。一週間単位で考えれば、その程度の数字ではないかと思う。

今後、高齢化が進み自分で動けない人が増えていくことを考えれば、地域内で有償で運転できる人もそんなにいないと思っている。5 年後には更に状況が変化しているため、高齢化率が 8 割まで増えたときにどうするのかという視点を持って検討してほしい。若い人が地域にいれば自家用有償旅客運送もできると思うが、現実的に川上地域を見ると、とても厳しいのではないか。現状分析は 5 年後ぐらいを見据えてやっていただきたい。

事務局：現状のまま、何もしないというわけにはいかない。移動するということは高齢者が元気でいることができるとも言える。福祉施策でもそうだが、運転手の確保が困難な状況になっている。仮に住民主体で実施する上でも、担い手の確保が喫緊の課題である。ただ、現状のままではどうしようもないので、路線バス、ぐるっとバスだけではなく、地域の担い手による移動手段の確保も含めて、計画策定を考えていきたい。

参加者：利用者負担の在り方については補助を出すということだが、ぐるっとバスを現行のまま無料で運行するのかという逆の考え方もある。どう考えているか。

事務局：利用者負担について、周辺部が割高であるとの認識がある。そこで福祉施策を含めて高齢者が外出しやすい方法について、市全体を見据えて検討していきたい。福祉施策とも連携して、方向性としては高齢者の移動手段の確保、利用促進も視野に入

れて検討する。

参加者：個人的にはぐるっとバスを利用するために、いくらか負担しても良いと思っている。車の運転もガソリン代が必要なので、その点は良いと思っています。

事務局：移動手段は確保したいのですが、持続可能性を担保する必要がありますからその点も考慮して検討したい。

参加者：高齢者になると手押し車を使いますが、これを載せられるような車両にしていっていただけないだろうか。乗せることができればずいぶんと便利になる。

事務局：公共交通を利用する上での配慮事項として車両を検討したい。

参加者：萩地域全体の課題として、萩・山口への交通手段がありますが、宇部・防府へのアクセスが悪い。宇部医大への治療・検査時にタクシーか身内の人に頼んでいかなければならないことが不便なので検討できないか。

事務局：交通事業者との調整や乗換えを含めて検討したい。

参加者：交通に関する新しい話題として、ライドシェアがあるが、現状川上で効率化して、実施する方法はないか。ウーバーなどのシステムがあるが、このような方法を適用できないか。また、萩市は導入に向けて積極的なのか教えていただけないか。

事務局：ライドシェアは、自家用車で運送することに関して、大きな力を発揮すると思われる。任意団体でも登録をすれば運送できる。京丹後市は過疎地域でウーバーを実施しており、利用者にとってはタクシー感覚で使えるメリットがある。その他の移動手段として、地域の助け合いなどの無償での運送は、安全性の確保は課題になる。

参加者：運転手不足という話は、ぐるっとバスの運転手の一日の勤務時間の上限が7.75時間までとなっており、運行時間が限られている事も要因の1つである。(ぐるっとバス運転手の意見)

事務局：川上地域の利用者のために運行したいという気持ちは大変ありがたい。しかし、萩市が運行管理をしており、契約上勤務時間の上限があるため、上限を超えた運行は難しい状況である。

道路運送法上は、拘束時間を含めて13時間以内までの運行は可能ではある。

参加者：ぐるっとバスで野菜を直売所などに運んでもらえないか。高齢者の方で野菜を作っているが、直売所まで持っていくのが大変という方は多い。せっかくぐるっとバスが走っているのだから、うまく機能すると良い。もし考えていただけるのであればお願いしたい。

事務局：ぐるっとバスについて、制度的には貨物と人を混乗させる貨客混載という方法はある。そのような方法も含めて、ぐるっとバスの見直しを検討したい。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上

平成 30 年度 交通に関する吉部地区・高俣地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 22 日（金） 10：00～11：30

場 所：むつみ農村環境改善センター

事務局：萩市、むつみ総合事務所、日本工営㈱

ご参加：住民の皆様 29 名



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：むつみには現在、歯科と内科はあるが、眼科はない。萩市のぐるっとバスで、希望者に対し、（眼科のある市街地まで）送迎をお願いしたい。年齢を重ねると、膝や腰が痛く、杖がないと歩けない状況などもある。ぜひお願いしたい。

また、バス運賃では、現状吉部から山口市内までの料金が高いが、山口市の赤松バス停から乗車すると、片道 300 円で行けると聞いている。萩市においても、バス運賃を安くしてほしい。

事務局：ぐるっとバスの旧萩市内への直接運行の要望は各地でも伺っているが、これを実施すると、路線バスの利用者が少なくなって、事業者の経営が成り立たなくなり、路線バスを維持できなくなってしまう。

体の不自由な方への対応は、福祉施策と連携して検討したい。公共交通の利便性を高めると共に、コミュニティでの送迎などの方法も含めて検討が必要である。

市街地までの移動について、現状は、ぐるっとバスのデマンド便で、自宅から吉部バス停まで行き、路線バスに乗り継いでいただく。帰りも同様に、路線バスで吉部バス停に到着後、ぐるっとバスのデマンド便に乗り継いでいただく。

また、周辺部のバス運賃が高いとの切実な話は聞いている。山口市は、高齢者に対し100円での定額運賃を設定しているが、萩市でも利用者負担の在り方を検討したい。吉部から萩地域まで往復2,000円以上で、周辺部の方には大きな運賃負担となる。福祉施策と連携して、萩市全体の利用者負担も考えながら進めていきたい。

参加者：4、5年ほど前、委員会を立ち上げて、全く同じアンケートを実施して、公共交通を検討した記憶がある。同様にコンサルタントもいた。その結果、今でもって変化がなく、代り映えがない、また調査をして、同じ結果となるのではないかと懸念している。

事務局：公共交通の計画は、5年ぐらいで見直しており、前回も実施している。前回の結果が役に立っていないとのことだが、今回は、高齢者の移動手段の確保に重きを置き、議論頂いている。周辺部は大変な状況であり、須佐・田万川ではタクシー事業者がいなくなる事態も起きている。ぐるっとバスのタクシー化は難しいが、高齢者の足の確保のため、運行方法を改め、利便性を高める取り組みを進めている。

利用者負担のあり方も、周辺部の方には負担が大きいことから、幹線と支線及びその結節や役割分担も踏まえて検討する。

公共交通の利用者は減ってきており、交通事業者だけでは対応できないところもあるので、住民主体の自家用有償旅客運送の方法も考えられる。行政と事業者と住民3者が協力して、自宅から目的地までの移動手段の確保や利用しやすい交通体系を検討する。

具体的な取り組みについては、長期的な検討が必要なものもある。担い手の確保も課題である。実証運行やぐるっとバスの見直しも含めて、取り組んでいきたい。交通事業者とも相談しながら進める。

前回の結果が出ていないのは申し訳ないが、高齢者の足の確保は大きな課題なので、しっかりと計画を作り、できるところから取り組みを進めていく。ご協力、ご支援を頂きたい。

参加者：吉部から萩への移動者が多いが、バス運賃は高い。またぐるっとバスで直接旧萩市に向かわせることは難しいとのこと。例えば、(路線バスの)事業者をいっそ無くして、コミュニティバスに補助金を充当して市が運行する方法も考えられないか。無理して赤字路線を維持することも無いため、検討頂きたい。

ぐるっとバスも、例えば100円徴収するなど、有料化を検討頂きたい。

しっかりとした住民へのサービスが行き届いた取り組みを検討して頂きたい。

事務局：市からは毎年1億4千万円ほど、公共交通の確保のために支出している。現状のバス路線や運行ダイヤ等、ニーズに応じた運行の見直し、あるいは代替となる交通手段の検討も一つの柱だと思われる。必要なものは必要とした上で、住民の方に密着した交通体系を検討する。

ぐるっとバスの有料化は、萩市全体の利用者負担の在り方として検討したい。

参加者：バスの運転手の話では、吉部から山口へ向かう際、赤松バス停(山口市内)から乗車すると、300円だと聞いている。昭和30年頃は、バスは押し込んで乗るほど客が多かった。お米の太ったもみを見るような状態だった。この頃のような利用状況になると嬉しい。

事務局：山口市の施策は高齢者に対し、バス運賃100円としている。萩市も公共交通の利用者負担の軽減を検討する。アンケート結果では、将来的には高齢者の8割の方が公共交通を利用すると回答している。これらを踏まえて、利用しやすい交通体系を作っていく。

-
- 参加者：今は車を運転しているが、15年先は分からない。免許返納も考えるし、高齢者の方では間近に返納する方もいる。タクシーチケットを配布するなど、萩市では免許を安心して返すことができる取り組みはあるのか。
- 高齢者の外出では、家から施設までの送迎が大事になる。意見交換会も送迎がないと来れない人もいる。検討いただきたい。
- 事務局：既に免許返納者も増えており、今後ますます進んでいく。市でも、簡単かつスムーズに公共交通に移行できる手立てを検討したい。返納した人が安心して乗れる公共交通で、また返納を促すことができる仕組みを検討する。
- また、自宅からバス停まで遠いなどの個別の実情もあるので、デマンド方式のように、自宅から目的地まで行けるような交通体系を検討する。高齢者の送迎ニーズが多いことも十分認識し、どういうネットワークが良いのか検討しながら、進めたい。
- 参加者：山口市内へ行くために、バスに乗って、三谷駅で電車に乗り換えるが、接続ダイヤが合わず、電車を乗り過ごすことがある。昔は電車とバスのダイヤが合っていたが、今はあっておらず苦慮している。
- 事務局：公共交通機関で移動する際に目的地までいけないことは、重要な問題である。鉄道と路線バスの乗り継ぎ環境も検討したい。
- 参加者：バスは渋滞や信号停車で遅れることもあり、電車の時間に間に合わず、おいていかれることもあった。不親切と感じた。5分早いと乗れるのに、現状はダイヤが合っていない。もう少し考えていただきたい。
- 事務局：ダイヤ改正も、バス事業者とJRの各社で実施しているため、萩市からも接続ダイヤ案などを作ることで、双方の調整協議を図りたい。
- 事務局：むつみ地域の吉部タクシーの利用状況はいかがか。
- 参加者：時々通院で利用する。またむつみの診療所に行く際に使うこともある。
- 参加者：電車の接続のために、三谷駅に行く際にタクシーを利用することもある。現状のバス路線で、1本でも2本でも良いので、鉄道との接続を検討していただきたい。
- 参加者：むつみが実家となる子ども世代が帰省する際、タクシーの利用がある。帰省者にとって、交通手段が無いのも不憫なので、タクシーがあるとありがたい。
- 事務局：タクシーは自由に動くことができるが、須佐・田万川では、事業者が撤退する事態が生じている。過疎地域で事業を継続することは難しく、全国的にも課題となっている。このような背景で、NPO法人等が自家用有償旅客運送を実施している例もあり、これらも含めて検討したい。
- 参加者：デマンド便にするにしても、大きい車両だと、高齢者にとって乗り降りが難しい場合がある。またむつみは小さい道も多いので、小回りの聞く車両の配置を検討して頂きたい。
- 事務局：現状のぐるっとバスは10人乗りの車両だが、他地域の意見交換会でも同様の意見があった。自家用有償旅客運送の制度により、自分の車を利用して、軽自動車で送迎することも可能である。担い手の確保の観点でも、自家用車の利用は有効である。ご指摘を踏まえ、ぐるっとバスの車両や自家用有償旅客運送なども踏まえて検討したい。
- 参加者：この計画は5年ごとに見直すとのことだが、結論はいつごろか。検討メンバーは旧萩市内の方ばかりで、周辺地域のことがいい加減にならないようにして頂きたい。また萩市内で自家用有償旅客運送を実施している例はないか。
- 周辺地域で生活するためには、現状は車が必要なので、自ら運転できるよう、なんとか健康を維持している。
- 市長との対話会では、免許返納や交通事故との関係について話した。長くハンドルを握るため、できるだけ事故を起こさないよう気を使っている。免許を返納すると、不自由になる。移動することで、健康寿命も伸びているため、体が動くうちは、ハン
-

ドルを握ることも重要であることを考えて頂きたい。

事務局：今回の計画づくりの予定は、今月は意見交換会を各総合事務所管内で行っており、4月には萩地域をまわる。計画本体は7月頃に素案を作成し、策定期間は今年12月を目標に進めている。また本計画の期間は2020年から2024年の5年間となり、短期的な事業、長期的な事業を整理して、進めることを考えている。

高齢者の移動手段の確保も、萩市全域で検討したい。萩市公共交通会議の委員も各地域の代表に出席頂いており、これらの方々としっかり議論して進める。

自家用有償旅客運送は、全国的な事例があり、山口市も自治会の連合会で、料金を徴収しながら実施している例もある。萩市にはまだ実施例はない。将来的には、きめ細かい対応が必要なので、導入を検討したい。

80歳過ぎて元気でおられることは大事なことである。元気な高齢者が、他の高齢者の支援をすることも、元気になる秘訣と個人的には思う。移動できる事で外出機会が増え元気でいられる。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上